

2008年 7月31日京都新聞朝刊に
武田敏宏専務理事の『心筋症』に関する記事が掲載されました。

健康生活のススメ ～ 胸が重苦しい、息切れがする～ Q & A 専門医がお答えします

2008年7月31日 本報 20

身体からのシグナル²

胸が重苦しい、息切れがする

心臓は人間の生命維持に不可欠な臓器で、その働きが低下すると、胸が重苦しい、息切れがするなどの症状が現れます。専門医が、これらの症状の原因や治療法についてお答えします。

Q & A 専門医がお答えします

夜久 均氏

循環器疾患の予防

日本における心臓・胸部大血管子集

喫煙などの危険因子を排除

循環器疾患の予防には、喫煙や高血圧、高脂血症などの危険因子を排除することが重要です。専門医が、これらの危険因子を排除するための具体的な対策をお答えします。

不整脈

心電図や超音波で検査を

不整脈は、心臓の電気的リズムが乱れることで起こります。専門医が、心電図や超音波検査による診断法や治療法をお答えします。

狭心症

胸部の締めつけや圧迫感

狭心症は、心臓の血管が狭くなることで起こります。専門医が、胸部の締めつけや圧迫感などの症状の原因や治療法をお答えします。

早期の診断、治療が重要

心筋梗塞

心筋梗塞は、心臓の血管が完全に閉塞することで起こります。専門医が、早期の診断と治療の重要性をお答えします。

心筋症

毎日の測定 体重増加に注意

心筋症は、心臓の筋肉が弱くなることで起こります。専門医が、毎日の体重測定や呼吸困難などの症状の重要性をお答えします。

大動脈疾患

日常的な血圧管理が大切

大動脈疾患は、大動脈の血管が硬化や狭窄することで起こります。専門医が、日常的な血圧管理の重要性をお答えします。

バックナンバーはインターネットURL: <http://www.kyoto-np.co.jp/sp/medical/search/index> で見る事ができます。

実際の新聞記事

心筋症

Q 心筋症とは。

A 主な心筋症のうち拡張型心筋症は、心臓の内腔が拡張するのが特徴で、心臓の収縮力が低下し、うっ血性心不全をきたす病気です。ただし、すべてが心不全に陥るわけではありません。肥大型心筋症は、心筋が肥大して心臓の内腔が狭くなるため、心室の拡張力が低下して、若年者の突然死や壮年期の難治性心不全の原因となります。

Q 主な症状について。

A 拡張型心筋症は、息切れ、夜間(横臥時)の呼吸困難、動悸、疲れやすい、むくみなどを初期症状として受診されることが多く、進行すると安静時の呼吸困難や肝うっ血などによる食欲不振をきたし、全身の衰弱が著しくなります。肥大型心筋症は、無症状の場合が多く、健康診断で初めて指摘される方も多くおられます。症状のある場合は、心不全症状のほか狭心症に似た胸の痛みや失神発作があります。

Q 日常生活の影響は。

A 禁煙、禁酒、塩分制限など心不全に対する一般的な生活習慣の改善が大事です。また、体重を毎日、同じ時間、条件で測定し、体重増加に注意する必要があります。心不全が軽症であれば、一日三十分週三回以上の運動が好ましいとされていますが、主治医の先生とよく相談する必要があります。肥大型心筋症の場合は、家族内発症が多いため、血縁者に肥大型心筋症がある場合は、一度、心エコー検査を受けていただきたいと思います。

2008年 7月31日付 京都新聞(朝刊) より